

第11章 松山遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより約100ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は、

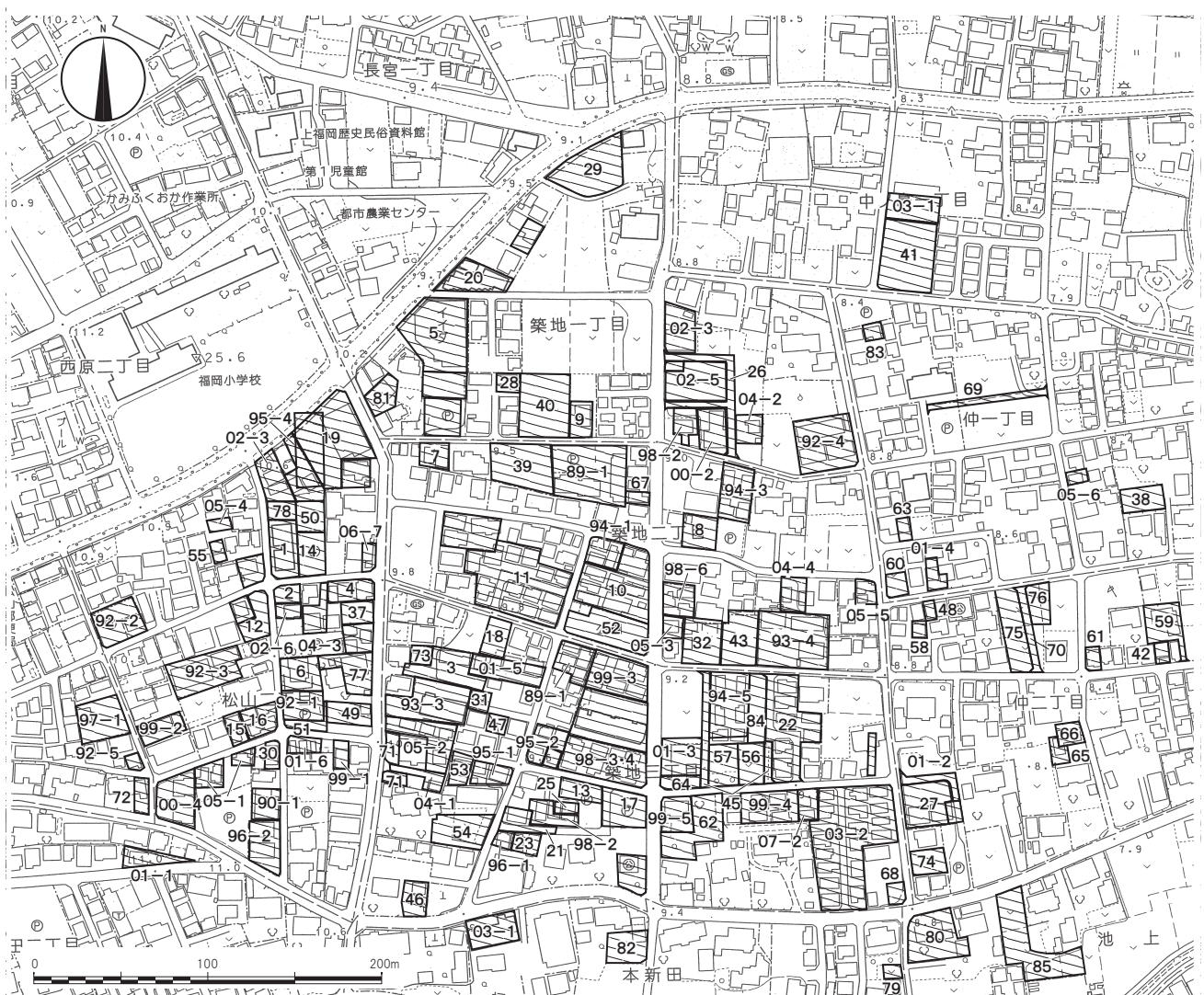
長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝、井戸等の中近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。

II 松山遺跡第69地点

(1) 調査の概要

調査は市道築造に伴うもので、ふじみ野市長より2013年3月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置するため、関係課と協議の結果、試掘調査を実施した。

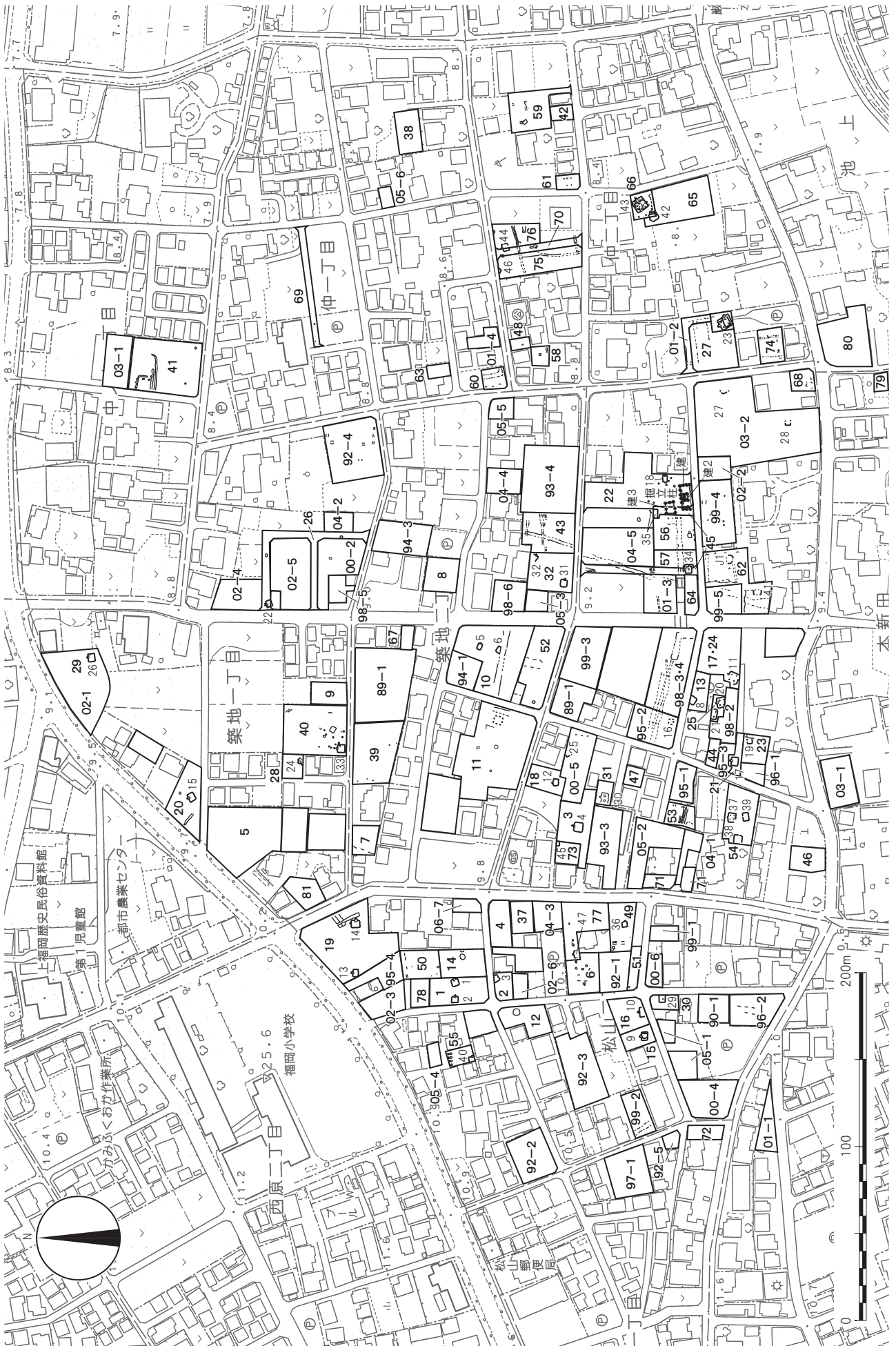
試掘調査は2013年9月10日と11日に行った。幅約1mと1.5mのトレンチ合わせて3本を設定し、



第23図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 16 表 松山遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
05 試(1)	松山 2-2-4 の一部	(2005.4.6～7)	313	土地分譲	遺構遺物なし	市内 1
05 試(2)	築地 3-1-32・34・43	(2005.4.19～21)	549	土地分譲	遺構遺物なし	市内 1
05 試(3)	築地 2-5-32	(2005.4.28)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
31 次	築地 3-1-69	2005.6.14～23(2005.6.9～13)	120	個人住宅	古墳住居跡 1	市内 1
05 試(8)	築地 2-5-3	(2005.8.30～9.13)	567	宅地造成	平安住居跡 1	市内 1
32 次	築地 2-5-3 の一部	(2005.8.30～9.7)9.8～13	132	個人住宅	平安住居跡 2	市内 1
05 試(5)	築地 2-5-36	(2005.10.31)	125	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
05 試(4)	松山 2-4-23	(2005.10.20～21)	161	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
05 試(6)	仲 1-4-26	(2005.11.14)	108	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
05 試(7)	松山 2-5-21	(2006.2.28)	100	個人住宅	遺構遺物なし	市内 2
37	松山 2-6-10・13	(2006.4.13)	228	個人住宅	遺構遺物なし	市内 3
38	仲 1-4-3・9・12・13・24	(2006.5.29)	2,176	宅地造成	遺構遺物なし	市内 3
39	築地 2-3-10	(2007.1.10～20)	937	宅地造成	遺構遺物なし	市内 3
40	築地 1-1-5	(2007.2.2～8)2.21～3.9	1,047	宅地造成	奈良住居跡 1、中世遺構検出	市内 3
41	中ノ島 1-2-5	(2007.2.7～9)2.21～3.5	1,281	宅地造成	中世遺構遺物検出	市内 3
42	仲 2-3-15	(2007.2.13)	108	個人住宅	遺構遺物なし	市内 3
43	築地 2-5-2	(2007.4.11～24)	668	分譲住宅	堀跡 1、土坑 1、旧石器ナイフ 1 点	市内 4
44	築地 3-2-10・14	(2008.6.9～11)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内 6
45	築地 3-4-7 の一部外	(2008.9.4～30)10.1～23	390	道路(上下水道)	奈良・平安時代竪穴住居跡 2、掘立柱建物跡 2、竪穴状遺構 1、時期不明の溝 10、土坑、ビット	市内 6
46	築地 3-1-33・35 の一部	(2009.2.17)	309	個人住宅	遺構遺物なし	市内 6
47	築地 3-1-52	(2009.5.11・12)	121	個人住宅	ビット	市内 8
48	仲 2-2-34	(2009.7.1)	67	個人住宅	遺構遺物なし	市内 8
49	松山 2-6-1・14・22 の一部	(2009.10.17～22)10.27～11.18	449	宅地造成	平安時代竪穴住居跡 1(住居内鍛冶炉検出)、土坑 1、溝 1、ビット 1	市内 8
50	松山 2-5-3・17	(2009.11.27～12.1)	797	分譲住宅	溝 1、ビット 7	市内 8
51	松山 2-6-22・23・28 の一部	(2010.5.10～13)	360	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 10
52	築地 2-2-1	(2010.8.26～9.3)	694	分譲住宅	溝 1、落とし穴 1、工事立会	市内 10
53	築地 3-1-11	(2010.9.10～21)	205	個人住宅	近代以降の溝 3、アナグラ 1、慎重工事	市内 10
54	築地 3-1-6・76～83	(2010.9.21～10.1)10.4～11.5	540	宅地造成	奈良・平安住居跡 3 確認、西側 1 の住居は盛土保存、他 2 は本調査	市内 9
55	松山 2-4-24 の一部	(2011.1.17)1.18～31	226	個人住宅	奈良平安時代の住居跡 1、掘立柱建物跡 1、本調査	市内 10
56	築地 3-4-7・8 の一部	(2011.4.4～14)4.11～15	483	共同住宅	奈良平安時代掘立柱建物跡 2 他、本調査(一部工事立会)	市内 11
57	築地 3-4-47	(2011.4.4～15)	241	分譲住宅	隣接する 45 地点から続く H34 号住居跡と溝、遺物なし	市内 14
58	仲 2-2-31	(2011.6.6～8)6.14	115	個人住宅	井戸 1、溝 1、ビット 1、本調査	市内 14
59	仲 2-3-6・9	(2011.8.8・9)8.10・11	560	個人住宅	土坑 2、溝 3、縄文土器、須恵器、本調査	市内 14
60	仲 1-1-15	(2012.3.26・27)	165	個人住宅	堀跡 1、溝 1、陶磁器、焙烙、工事立会	市内 14
61	仲 2-3-3	(2012.4.16～19)	113	個人住宅	溝 1、土坑 3、陶磁器	市内 15
62	築地 3-5-11・14・19	(2012.6.11～21)7.23～8.1	842	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、奈良平安時代住居跡 1、溝 6、縄文土器、銭貨、他	市内 12
63	仲 1-1-55・56・57	(2012.6.5)	120	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15
64	築地 3-4-9	(2012.6.7～15)	314	分譲住宅	溝 4、近世の土坑、陶磁器	市内 15
65	仲 2-1-25・36	(2013.2.13～18)2.19～3.21	630	物置	奈良平安住居跡 2、掘立柱建物跡 3、土坑 6、溝 6、須恵器、旧石器	市内 15
66	仲 2-1-53・54		179	個人住宅		市内 15
67	築地 3-3-13	(2013.2.19)	92	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15
68	築地 3-5-1	(2013.3.7・8)	166	個人住宅	井戸 1、土坑 1、ビット 4、須恵器、土師器等	市内 15
69	仲 1-51・53・55	(2013.9.10・11)9.12～17	298	道路築造	縄文時代集石土坑 1、溝 1	市内 18
70	仲 2-2-39・41	(2013.4.11～16)4.17～23	220	道路	奈良平安住居跡 1、中世以降井戸 1、集石土坑 1、溝 2、須恵器、土師器、土錘、陶磁器	市内 18
71	築地 3-1-16・32・34	(2013.4.30～5.1)	240	分譲住宅	ビット 1、古銭、陶器片 1	市内 18
72	松山 1-4-1	(2013.5.24)	199	個人住宅	遺構遺物なし	市内 18
73	築地 3-1-56	(2013.8.19)8.20	165	個人住宅	平安時代住居跡 1、須恵器	市内 18
74	仲 2-1-37	(2013.12.24～26)	280	分譲住宅	井戸 1、集石土坑 1、溝 2、土坑 1、陶磁器	市内 18
75	仲 2-2-2・4	(2014.1.14～20)8.5～11	606	分譲住宅	平安住居跡 1、溝 3、須恵器、土師器	市内 18
76	仲 2-2-48	(2014.1.22～28)9.26～10.2	120	個人住宅	土坑 1、井戸 1、溝 1、土器	市内 18
	仲 2-2-37	(2014.1.22～28)11.12～17	120	個人住宅	古代住居跡 1、土師器	市内 18
	仲 2-2-37	(2014.1.22～28)	362	造成工事	平安時代住居跡 1、井戸 2、溝 2、土坑 3、土師器、須恵器、中世陶器	市内 18
77	松山 2-6-2・3・12 の各一部	(2014.3.3～12)3.13～27	493	個人住宅	平安時代住居跡 1、土坑 3、土師器、須恵器	市内 18
78	松山 2-5-5	(2013.5.22)	242	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
79	本新田 395-1 の一部	(2014.8.5)	153	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
80	池上 372	(2015.3.12)	1,183	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
81	築地 1-1-12	(2015.3.23)	247	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
82	本新田 411 の一部	(2015.7.30・31)	194	個人住宅	溝 1、遺物なし	未報告
83	仲 1-2-22	(2015.8.31)	98	分譲住宅	溝 1、遺物なし	未報告
84	築地 3-4-13	(2015.9.15・16)	455	宅地造成	平安時代住居跡 1、井戸 1、土師器	未報告
85	池上 362-1 の一部、364・365・366 の一部	(2015.10.1～19)10.20～26	1,244	分譲住宅	古代時代住居跡 2、屋外炉 1、溝 1、土師器、陶磁器、石製品	未報告



第24図 松山遺跡遺構分布図 (1/3,000)

古い。平面形態は円形か楕円形とみられる。検出部の規模は、確認面径 156 × (132) cm、底径 76 × (43) cm、深さ 95.7 cm である。

②溝

溝 1 ～ 3 については、第 70 地点及び第 75 地点の項で述べた。本項では溝 4 について報告を行う。

【溝 4】 3 区画に分譲された区画の中で、南端の区画に位置する本溝は、試掘調査で検出した。土坑 2 と重複するが、新旧関係、時期などは不明である。

溝 4 は調査区を東西方向に延び、東側は調査区外に延びるとみられる。断面形態は広い「U」字状で、規模は上幅 146 ～ 170 cm、下幅 69 ～ 82 cm、深さ 69.7 cm である。

出土遺物は、第 33 図 31。詳細は、第 20 表参照。

VI 松山遺跡第 71 地点

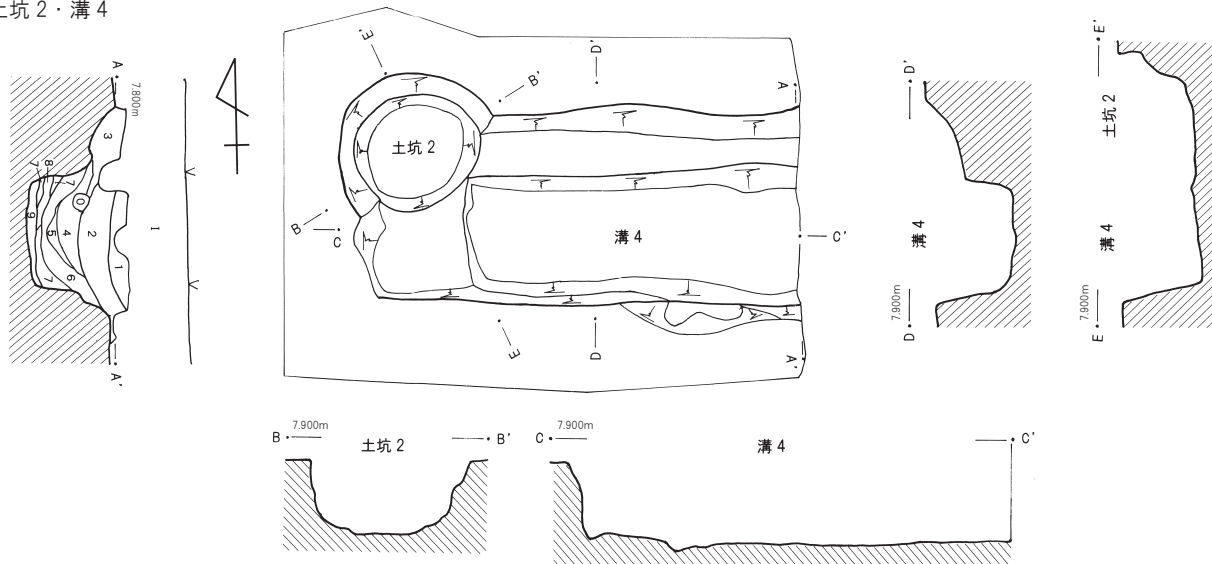
(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 3 月 1 日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013 年 4 月 30 日～5 月 1 日に試掘調査を実施した。

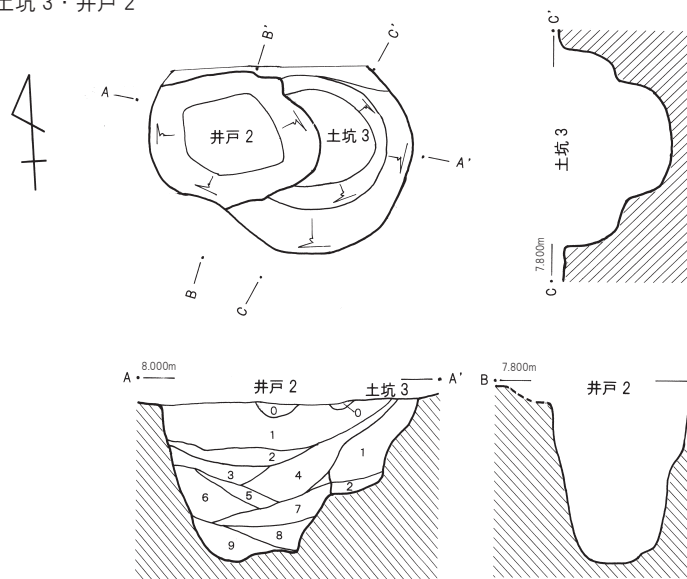
試掘調査は、幅約 1.5 m のトレンチ 5 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは 40 ～ 70 cm である。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

土坑 2・溝 4



土坑 3・井戸 2



井戸 2

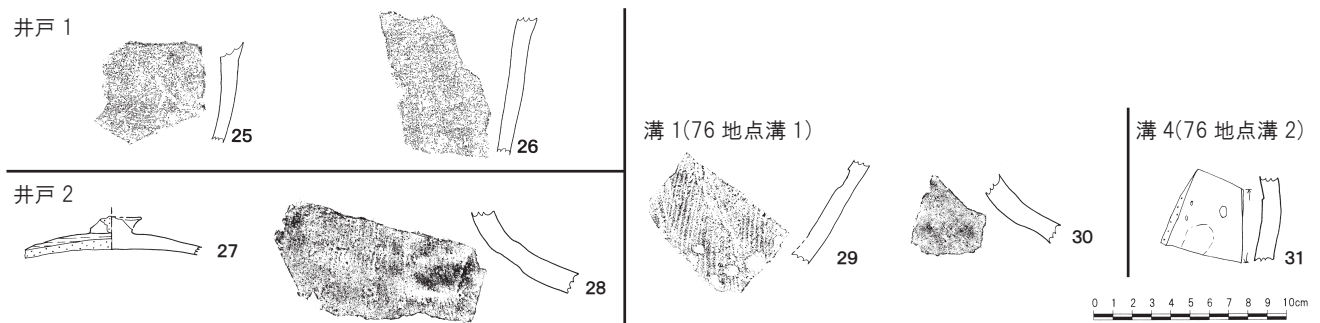
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、灰色味が有る、5 ～ 40mm やや多く、5mm 以下焼土・炭化物少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒少し、3mm 以下炭化物・5mm 炭化物僅かに含む、酸化土が目立つ
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、3cm 以下ロームブロック・3mm 以下ローム粒やや多く含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状の暗褐色土を多く含む
5. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm 以下ローム粒少し含む
6. 黒褐色土 締り強、粘性有、3cm 以下ロームブロックを多く含む土と、3mm 以下ローム粒を少し含む土が斜位で互層を成す
7. 黒褐色土 締り有、粘性有、1cm 以下ロームブロック・粒少し含む、締り弱め
8. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒多く含む
9. 黒褐色土 締り強、粘性有、1 ～ 3cm ロームブロック少し、5mm 以下ローム粒やや多く含む

土坑 3

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒少し含む、5 層より締り強い
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に 3cm 以下黄灰色土やや多く含む



第 31 図 松山遺跡第 76 地点土坑・井戸・溝② (1/60)



第 33 図 松山遺跡第 76 地点出土遺物 (1/4)

第 20 表 松山遺跡第 70・75・76 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

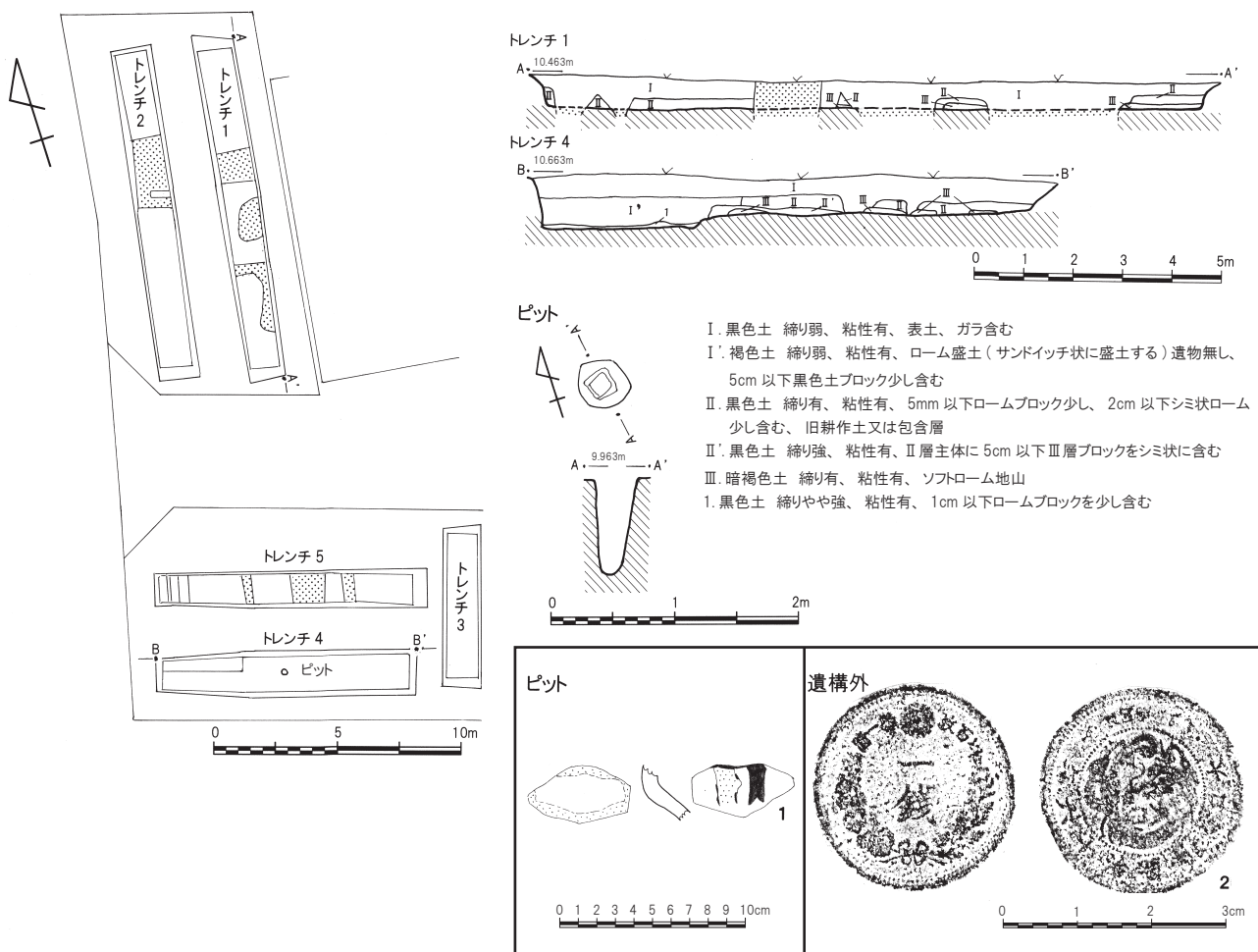
掲載No	出土遺構名・注記No	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代
1	H44 号住居跡 70H44-No.8、B 区、H1	土師器 / 環	(13.7)	—	3.2	口縁部横ナデ、内面ナデ、外面胴部～底部ケズリ / 胎土: 橙色、中粒砂・赤色粒 / 北武蔵型	—	7c 後半～8c 前半
2	H44 号住居跡 76H44No.7	土師器 / 環	(11.0)	—	(3.1)	口縁部横ナデ、内面ナデ、外面胴部～底部ケズリ / 胎土: 明褐色、中粒砂少・白色粒	—	7c 後半～8c 前半
3	H44 号住居跡 76H44-No.3、4	土師器 / 甕	(16.2)	—	(5.4)	口縁部横ナデ、内面ナデ、外面胴部斜ケズリ / 胎土: 橙色、赤色粒・中粒砂	—	7c 後半～8c 前半
4	H44 号住居跡 70H44No.10、12	土師器 / 長胴甕	(21.0)	—	(10.7)	口縁部横ナデ、内面ナデ、外面胴部縦ケズリ / 胎土: 橙色、中粒砂・赤色粒 / 器厚 0.8cm	—	7c 後半～8c 前半
5	H44 号住居跡 76H44-No.14、15、23	土師器 / 長胴甕	25.0	—	(18.1)	口縁部横ナデ、内面ナデ、外面胴部縦ケズリ / 胎土: 浅黄褐色、中～粗粒砂 / 器厚 0.8cm / 胴部に煤付着	—	7c 後半～8c 前半
6	H44 号住居跡 76H44No.11、12	土師器 / 長胴甕	—	—	(25.0)	内面ナデ、外面胴部縦ケズリ・中位に横ケズリ / 胎土: 橙色、中～粗粒砂・赤色粒 / 器厚 0.8cm	—	7c 後半～8c 前半
7	H44 号住居跡 70H44No.20	土師器 / 甕	—	—	(17.4)	内面横ケズリ・下部ナデ、外面上部縦・以下斜ケズリ / 胎土: 橙色、中～粗粒砂・赤色粒 / 器厚 0.5～8cm	—	7c 後半～8c 前半
8	H44 号住居跡 76H44No.1	土師器 / 長胴甕	—	7.3	(11.9)	内面ナデ、外面胴部縦・底部周辺横ケズリ / 内底面・外面に煤付着 / 胎土: にぶい黄褐色、中粒砂少	—	7c 後半～8c 前半
9	H44 号住居跡 76H44No.13	土師器 / 長胴甕	—	(7.8)	(14.1)	内面ナデ、外面胴部縦・底部周辺斜～横ケズリ / 胴部に煤付着 / 胎土: 橙色、中～粗粒砂 / 器厚 0.6cm	—	7c 後半～8c 前半
10	H44 号住居跡 76H44No.5	土師器 / 長胴甕	—	(6.0)	(6.6)	内面ナデ、外面底部周辺横ケズリ / 胴部に黒斑有 / 胎土: 橙色、中粒砂・赤色粒 / 器厚 0.6cm	—	7c 後半～8c 前半
11	H44 号住居跡 70H44No.6	土師器 / 長胴甕	—	6.5	(3.8)	内面ナデ、外面底部周辺横ケズリ / 底部に煤付着 / 胎土: 橙色、中粒砂・赤色粒 / 器厚 0.5cm	—	7c 後半～8c 前半
12	H44 号住居跡 70H44No.1	土製品 / 土鍾	5.5	1.3	—	重量: (8.93)g / 一部欠 / 胎土: 細粒砂	—	—
13	H44 号住居跡 70H44No.9	土製品 / 土鍾	5.1	1.4	—	重量: 9.52g / 胎土: 細粒砂	—	—
14	H44 号住居跡 70H44No.2	土製品 / 土鍾	5.0	1.3	—	重量: (7.69)g / 一部欠 / 胎土: 細粒砂	—	—
15	H44 号住居跡 70H44H1	土製品 / 土鍾	(1.2)	(0.9)	—	重量: (0.85)g / 一部残存 / 胎土: 細粒砂	—	—
16	H46 号住居跡 75H46No.6	土師器 / 環	13.0	7.5	3.5	口縁部横ナデ、内面ナデ、外面胴部～底部ケズリ / 胎土: 橙色、中粒砂	—	8c 前半～中
17	H46 号住居跡 75H46No.2	土師器 / 甕	(最大幅 21.2)	(9.4)	(11.6)	内面ナデ、外面横ケズリ / 胴部に黒斑有 / 胎土: 橙色、中粒砂・赤色粒 / 器厚 0.5cm	—	8c 前半
18	H46 号住居跡 75H46No.3	須恵器 / 壺?	—	—	(3.8)	輪積成形 / 内面ナデ、外面平行タタキ目 / 胎土: 灰色、白色粒子多量・石英粒微量	—	8c
19	H46 号住居跡 75H46No.1	須恵器 / 鉢?	—	—	(17.7)	輪積成形 / 内面ナデ・同心円当て具痕、外面平行タタキ目 / 胴上部に沈線 2 条、把手貼付け跡 / 胎土: 灰色、白色粒子多量・石英粒微量、内面縦転用か?	—	8c 前半
20	井戸 1 井 1	陶器 / 青磁碗	—	—	(2.2)	連弁文 / 胎土: 灰白色 / 釉薬: 明緑灰色 (7.5GY-7/1)	能泉窯	13c 中～14c 前半
21	井戸 1 井 No.2	須恵器 / 甕?	—	—	(3.5)	輪積成形 / 内面ナデ、外面平行タタキ目 / 胎土: 灰色、白色粒子多量・石英微量	—	—
22	井戸 1 井 1-2	陶器 / 甕?	—	—	1.1	輪積成形 / 内外面ナデ / 胎土: 表面以外は酸化炎焼成となり浅黄褐色、砂粒	常滑	13c～14c
23	井戸 1	土製品 / 粘土塊	9.0	7.2	2.5	ナデ痕? 有り / 白色粒子微量 / 重量: 71.32g	—	—
24	井戸 1	土製品 / 粘土塊	3.4	3.3	2.4	白色粒子微量 / 19.06g	—	—
25	井戸 1 1 井	土師器 / 甕?	—	—	(5.2)	口縁部横ナデ、内面ナデ、外面横～斜ケズリ / 胎土: 淡黄色、中粒砂・赤色粒	—	—
26	井戸 1 1 井	土師器 / 長胴甕	—	—	(7.0)	内面ナデ、外面頸部横ナデ、胴部縦ケズリ / 胎土: 橙色、中粒砂	—	—
27	井戸 2 2 井 2	須恵器 / 蓋	(9.2)	紐径 (3.0)	(2.1)	輪積成形 / 内外面ナデ / 扁平紐 / 胎土: 灰色、白色粒子・白色針状物質	南比企	8c～
28	井戸 2 2 井 2	陶器 / 甕	—	—	(4.2)	輪積成形 / 内面指圧痕・ナデ、外面赤褐色・自然釉 / 胎土: 灰白色、白色粒子・砂粒、キメ粗い	常滑	中世
29	溝 1 1M	陶器 / 甕	—	—	(5.5)	輪積成形 / 内面ナデ、外面ハケ目ナデ・赤褐色 / 胎土: 灰白色、白色粒子・霰、キメ粗い	常滑	中世
30	溝 1 1M	陶器 / 甕	—	—	(3.8)	輪積成形 / 内面ナデ・赤褐色、外面赤褐色・自然釉 / 胎土: 灰白色、白色粒子・砂粒、キメ粗い	常滑	中世
31	溝 2 2M2	陶器 / 甕	—	—	(4.4)	輪積成形 / 内面ナデ、外面灰釉? (暗オリーブ色、7.5Y4/3) / 胎土: 灰白色、細粒砂、キメやや細かい / 割れ口の 1 面が摩滅し、転用砥	常滑	中世

(2) 遺構と遺物

遺構はピット 1 基を検出した。ピットの平面形態は方形で、規模は確認面径 43 × 37 cm、底径 15 × 14 cm、深さ 98.2 cm。また、調査区西側の溝は、近現代の遺物を含み、道路の側溝か土地境に伴うものとみられる。上幅 88 ～ 92 cm、下幅 30 ～ 38 cm。深さ 26.1 cm。

遺物は、ピットの覆土層から陶器の破片 1 点が出土した。(第 34 図 1) 甕の頸部から肩にかけて、内外面に自然釉が掛る。第 34 図 2 は表土層から採集した竜 1 銭銅貨で、表面に竜の文様と「大日本・明治十六年・1 S E N・」、裏面「一銭、以百枚 菊紋 換一圓」。1883 年製。重さ 6.25g。

第 71 地点



第 34 図 松山遺跡第 71 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、ピット (1/60)、出土遺物 (1/4・1/1)

Ⅶ 松山遺跡第 72 地点

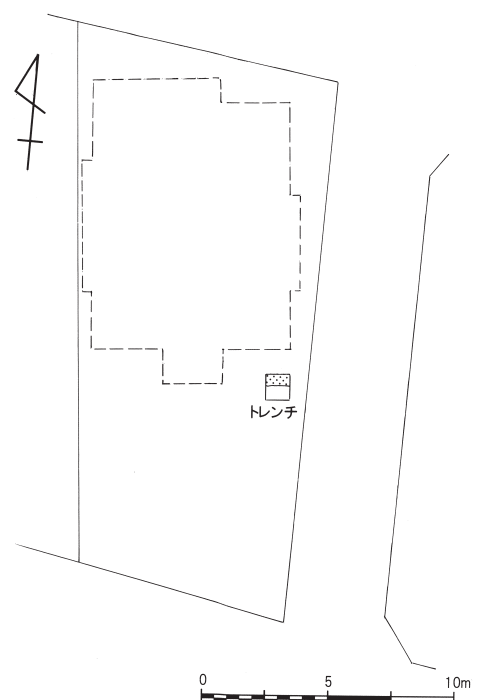
(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 5 月 23 日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013 年 5 月 24 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約 1 m 四方のトレンチ 1 カ所を設定し、人力で表土除去後、精査を行った。

現地表面から地山ローム層までの深さは約 50 cm である。近現代の塵穴を確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

第 72 地点



第 35 図 松山遺跡第 72 地点調査区域図 (1/300)



松山遺跡第 71 地点調査風景



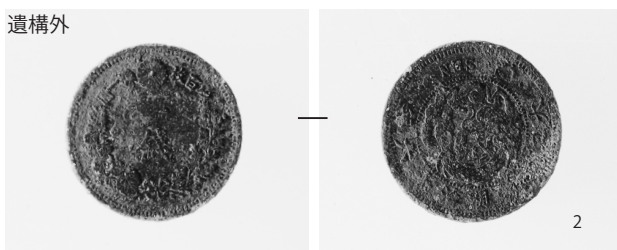
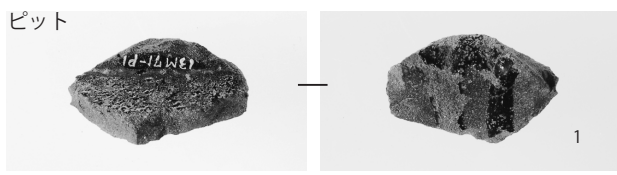
松山遺跡第 71 地点トレンチ 1



松山遺跡第 71 地点トレンチ 4 ピット



松山遺跡第 71 地点トレンチ 5



松山遺跡第 71 地点出土遺物



松山遺跡第 72 地点調査風景



松山遺跡第 72 地点トレンチ



松山遺跡第 73 地点調査風景